

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を『心』とし、「一人ひとりを思いやる心」「その方の今を優しく見つめる心」を掲げ、地域の一員であると理解し、生活に活かせるよう取り組んでいる。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事業所内に掲示し、職員全員が周知している。理念を元に、その方の持っている力を活かせるよう介護方針を考え、取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは、普通の家庭生活を送れるようにしたいと話している。その為に話し合いを行い、協力をお願いしている。地域の人々との関わりの取り組みが不十分である。	家族会を通してミーティングを行い、地域との関わりを増やし、協力をお願いして行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	建物の構造上玄関が奥まっております。昨年、隣接していたリハビリテーションクリニックが閉鎖した事もあり、気軽に立ち寄ることが難しいが、庭越しに話をしたり、散歩中に挨拶を交わすという付き合いは出来ている。	日課としている犬の散歩を通じて、近隣の方々と交流を深めて、気軽に立ち寄って頂けるホームにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は、町内会へ加入していたが、自治会の組織変更の為に、会社・施設等町内会への加入が出来なくなった。しかし地区の運動会や敬老会には参加している。当ホームの入居者が、以前、入居していたホームの方が、遊びに来たり、こちらから違いに行ったりしている。	地域活動に積極的に参加して、当ホームを地域の方々に知って頂けるよう、交流の場を増やして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	主任の退職・職員の退職が続き、職員体制を作り上げることが先決で取り組める状態ではなかった。		今後、話し合いの上、検討し、取り組んでいけるよう努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より職員へ評価について報告している。ミーティングを行い、改善すべき点は、改善できるように取り組んできた。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者の生活をより良いものにしていく為のものと考えている、現在はホームの問題点は何であるかを家族会を中心にサービスの向上を図っている。家族会が行ったアンケートの結果に基づき改善を検討している。		・ご家族と話し合い機会をもっている。 ・運営推進会議を堅苦しいものではなく、入居者・家族を交え昼食会や茶話会等と実際の生活を見る場として、構成員の参加を呼び掛けたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会の役員をしているので、懇談会などで話し合う機会を作っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について職員全員が理解できていない。		勉強会や研修を行い、制度について理解を深めるようにしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。 研修を受けた職員を中心に、ホーム内で勉強会を行い、防止に努めている。		今後も研修に参加し、勉強会を通して職員に意識づけし、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、不明点はないか確認を行い、分かりやすいように説明している。退居時は、退居理由を事前に家族と十分話し合い、納得した上で、手続きを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時は、自室にて過ごして頂き、家族同士で話が出来様 配慮している。来訪時は、近況報告をしている。本人や家族からの思い・情報等は、連絡ノートを用いて職員で共有し、改善に努めている。</p>	<p>今後も継続していきたい。入居者が、不満や不安を言い易い様に信頼関係を築いていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身状態や健康状態について、変化・異常等の連絡事項は、随時電話にて早急に報告している。さらにこ新聞を定期的に郵送し、入居者の暮らしぶりを伝えている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時やホーム内の行事の時などに、コミュニケーションを取り、意見・不満・苦情を言い易い関係作りに努めている。外部に対しては重要事項説明書に記載して説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや個別面接を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。事業所内で改善出来る事は検討し、本社へ挙げる事は担当者へ挙げ交渉している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者に合わせ落ち着いて生活できるよう、可能な限り勤務調整を行っている。ターミナル時期に関しては状況により時間帯の人員調整を行う。</p>	<p>職員と話し合い手薄な時間帯を作らないようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット職員は固定している。退職を希望する職員とは、留まる方向性はないか話し合いを設け、極力離職を無くす様努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当(主任)は、法人内外の研修に参加して、資料を作成し、職員へ配布している。 定期的に所内研修を計画していたが、人材不足で時間が確保できず、計画通り行えていない。		法人内外の研修に参加していく。 所内研修の時間を確保し、職員のスキルアップに努めていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はGH連絡会役員をしている為交流はある、その中でもGH間の職員交流をさせたいとはなしているが、日々の業務に追われ職員数も限られているため、外部との交流ができないのが現状である。		地域のGHとの交流を持ち職員だけでなく、入居者同士の交流を図れるようにしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休は、出来る限り取れるようにしている。 職員の希望を受け、各ユニットごとで職員を固定化している。		有給消化ができない状態であり、有給を活用できる体制作りをしたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の仕事に対する悩みや体調を把握するようにしている。 個別に話をし、共に考え、悩みやストレスの軽減に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム内を見学して頂き、面接をして、困っている事・不安な事等 本人の意向を聴いている。 職員間で情報を共有し、その方の意向を取り入れられるよう努力している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接をして、家族が困っている事・不安な事等家族の意向を聴いている。 職員間で情報を共有し、家族の意向を取り入れられるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を受けて、より良いサービスを提供出来る様努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をして頂いている。 ホームに馴染めるようコミュニケーションを図っている。 住みやすい環境作りの為、本人・家族と相談しながら、必要なものを揃えていくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者としてではなく、同じ目線で考えて、共に支え合い、喜怒哀楽を共有していく関係を築いていくよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者のホーム生活の様子を報告し、協力をお願いし、共に本人を支えていくように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係を理解し、職員が聞いた本人の思いを家族に伝え、より良い関係が築けるよう支援している。		行事等の参加をお願いし、本人と家族の関わる時間を増やしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があるときは、連絡をとり、会いに行ったり、家族に協力をお願いして出かけている。手紙を書いたり、受け取ったりして連絡をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関りを増やすよう支援はしているが、個性が強いためなかなか協働の力を引き出せないでいる。		職員が関わりを見直し、入居者同士の関りを増やして行けるを職員と考え取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居理由は様々であるが、退居後は殆ど関係を持たない。道で逢えば挨拶を交わす程度になってしまう。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人の思いや要望を優先する為、理解できる方には、必ず話をして本人の意向の把握に努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に個人の生活歴や対応の仕方について、ミーティング等で情報交換を行い、生活環境やサービス利用の経過の把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日、出勤時の挨拶やバイタル測定の時間を設けて、健康状態の把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個人に対する課題に沿いアセスメントを行うが、独断の思考にならない様に、様々な視点からの情報交換に努めている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しに関して、影響が生じないサポートをスタッフ間で考慮した上で、御家族側の意見や同意を求める。本人の負担になるサポートプランは、廃除して新しく練り直す。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録を始め、申し送りノートを活用する事で、スタッフ全員が情報を共有している。共有した情報により、プランの改善や見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリや医療連携といった要望に対応出来るように、環境整備に日々努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災対策として、消防訓練などホーム内実技講習を定期的 に実施している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	生活リハビリを中心とした方針で支援に取り組んでいる。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの協働はしていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関して月2回の往診2ユニットを週で分けている為毎週ホームには主治医が往診に来ているので状態によりいつでも相談ができる。週2回の訪問看護ステーションの看護師が訪問している。医療連携が近隣の為、対応も比較的早く、御家族からの理解も得ている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診の際や不明な点がある場合、必ず主治医の判断に従い、指示を仰いで治療や対応に努めています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週2回の訪問看護により、日頃の体調管理や情報交換に努めています。相談がある時は電話で気軽に相談がで、早め早めの対応ができる。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が急変し入院が必要になった場合、入院できる体制が確立されている。その為医師・看護師との連携ができ、できるだけ早い段階で退院が可能となっている。退院後の経過を往診時や訪看訪問時に報告している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>主治医から終末期の判断が下り次第、詳細の現状を主治医から御家族へ直接話す機会を作っています。医療連携を確認した上、全員で方針に従い、統一したケアを実践しています。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今後、起こり得る事を想定して、緊急時の事業所の役割・病院側の役割を明確に取り組んでいます。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の生活空間を壊さない為に、介護サマリーなどを用いて情報を共有します。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の方々に関しては、事業所の理念である“心”を持ち対応しています。個人ファイルを用いて、情報の管理に努めています。プライバシーマークを取得しているため、本社の指導の下個人情報の取り扱いを行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>主張の実現や選択肢を与えることで、自己決定を促す支援に努めています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活スタイルや希望・要望に沿い、日々の支援に取り組んでいます。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>整容について、印象を重視して行っています。理容・美容は、訪問美容師が希望に合わせて利用できる。御家族の対応により、希望の理髪店に行かれている方もいます。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の得意分野を活かして、役割を取り入れています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個々の思いや要求に合わせた支援を心掛けています。お酒については、飲みすぎないように支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄能力に応じた支援に取り組んでいます。排泄のシグナルや不快感を味合わせない様に努めています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	要介助での入浴の方は、支援が必要なので、スタッフがいる時間帯での入浴になります。曜日で人数調整をしていますが、自立している方に関しては、好きな時に入浴して頂いています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時は、個々の生活リズムを優先しています。排泄や口腔ケアを怠らず、気持ちよく休んで頂けるように努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	サポート次第で役割を果たせる方については、積極的に取り組んで頂いています。楽しみ・気晴らしとして、外出支援を定期的実践する様に努めています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方や、手元にある程度所持していないと不安という方には、個人で所有して頂ける様に努めています。御家族に報告した上で、行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気温など、体調管理や身体状況を踏まえた上で、外出支援を行います。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の一環として、外出支援に努めています。他にも、外出支援として、御家族にも協力して頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、自ら電話を掛ける事が困難な場合は、スタッフが対応します。極力、本人から要望を伝えられる環境作りに努めています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人と濃密な時間を過ごせる様に、接客マナーや快適空間作りなど、環境整備に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	状態に応じた対応を行う際、身体拘束が行われていないか？ 試行錯誤して取り組んでいます。以前、事業所内でも講習を行いました。言葉の拘束も含め、廃除に努めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵は一切掛けません。開閉時、チャイムにて出入を確認し、声掛け・付き添うことで事前に事故防止に努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずリビングにスタッフが居る様に職員間の連携を図っている。夜間は、定期的な巡視にて安全を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の保管・管理について、行動範囲の広い入居者の収集癖から防ぐため、個人の物品は、各居室での保管としました。危険な物は手の届かないところや、施錠できる場所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止の為、2人以上での確認し飲み忘れが無いよう服薬支援した職員の名前を記録してチェックしている。行方不明等はマニュアルを作成している。行方不明にならないよう職員の連携で入居者の所在確認を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所として、最低限の対応を身に付けるため、実技講習や対応の確認を状態変化に合わせて実施している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路の確認・避難場所の確認など、災害に備えてミーティングにて統一されています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	対応を変える際に起こりえる問題について話します。本人はもちろん、御家族の意向にも耳を傾けています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行っています。体調不良や変化が確認された時点で、訪問看護師へ相談必要に応じ速やかに受診している。受診結果等申し送りして引継ぎ、経過観察を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、特に症状の変化に気をつけています。薬専用のファイルを用いて、薬に対して理解に努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬での対応以外に、食事形態の改善や散歩や体操など、軽い運動での便秘解消に努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の生活習慣の一部として身に付く様に、毎食後の口腔ケアを促しています。口腔内の清潔保持の為、努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の水分以外でも、ティータイムやおやつの時間に定期的な水分補給を確保しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、ミーティング時に内容を確認している。感染予防の為、衛生面に配慮し介助している。都度プリントを作成し職員へ配布している。		様々な感染症に関する予防と対策を全職員が理解し実施できるよう、日常的に取り組んでいきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	両ユニット共通として、食中毒予防の為、毎晩調理用具等の塩素消毒を実施している。又、食材は新鮮なうちに調理し、残りものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近は、車の通りが無いので、比較的安全に作られています。庭が開放的なので、近隣の方からも声が掛かります。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、手作りの物や写真を飾っています。それぞれ季節を感じてもらえるように、貼り替えて対応に努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や廊下のソファ以外に、フロアのテーブルの形を、皆が顔を合わせ対話出来るように模様替えをしました。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、タンスやベッドなど、使い慣れた物を使用している方もいます。 個々の快適な空間作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個室という事もあり、空調の管理が難しい方が多いので、消し忘れなどの機械操作も含めて、必ず確認する事に努めています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには、手すりが設置されている。浴室は両麻痺対応可能な2つのタイプの浴槽がある。今ある身体機能を安全に活かせるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が持つ力を見極め、寄り添いさりげなく声掛け、手順指示、誘導することで混乱を防ぎ、失敗による自信喪失を防ぐよう支援をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	冬場は、活用する機会が少ないですが、季節に応じて畑や花を見たり、日光浴・犬と遊ぶなど最大限に活用することに努めている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「お一人お一人を思いやる心」「その方の今を優しく見つめる心」人はすべて『心』と考えて、一日一日を大切にケアに努めています